

市長との対話集会 概要（20241110）

■日 時：令和6年11月10日（日）10時～11時55分

■会 場：総合保健福祉センター にこ♥ふる2階 こども家庭センター内「なかよし広場」

■参加者：7名（8名申込）

■市側参加者：市長、建設部長、教育部長、政策企画課主幹、子育て推進課長
健康福祉部長（進行）

○参加者 ●市

○鼠ヶ関には学童でなく放課後子ども教室があるが、長時間子どもを預かってもらうことが難しい。知り合いの保護者が、「送迎をするためにスクールバスを活用できないか」と学校に問い合わせたところ、「管轄がちがう。送迎を希望するなら保護者同士でタクシーを借りたらどうか」と回答されたそう。

●子育て推進課長

放課後子ども教室の運営スタッフは地域ボランティアの方々なので、利用時間の延長はスタッフとの調整が必要。鼠ヶ関以外の学童がない地域とのバランスを考慮しながら、検討を進めるとともに、近隣学区の学童に送迎する補助制度の活用も考えていきたい。

●市長

現在、本市の放課後児童クラブは、小学校26校に対して21ヶ所で、支援単位の数は43単位（1単位40人程）。上郷、豊浦、湯野浜、西郷、鼠ヶ関には放課後児童クラブではなく、放課後子ども教室（文科省の管轄）が設置されている。それぞれの地域で暮らす子育て世代が安心して働けるように、子どもたちが過ごす放課後の環境の充実を目指して取り組んでいきたい。

●子育て推進課長

その一つとして、温海地域の放課後児童クラブの送迎方法を検討する。市としては、現在、送迎タクシーを利用する際の補助制度を設けている。スクールバスの活用は一つの手段だが、運用するには教育委員会との調整が必要になる。

○8年前に鶴岡にUターンしてきた。福岡で学童の仕事を手伝っていた経験があり、学童と学校はセットであるものだと思っていたが、鶴岡市はそうとは限らないと知って驚いた。福岡県では必ずしも学童専用の建物があるわけではなかった。例えば、空き教室を利用したり、運動場やグラウンドの一角にプレハブを建てたりしていた。運営責任者は市の職員で、現場は5～6人のパート職員が担当していた。今の時代は共働きが多く、学童の需要は増えている。専用の建物がなくても整備が進められる学区はあるのではないかな。市内の学童がない学区全てを横並びに進める必要はなく、すぐにできるところや要望の強いところから順番に着手していけばいいのではないかな。

●市長

鶴岡市は財政支出を抑えようという意識があったので、民設民営でやっていた。市内の学童のほとんどは、民間事業者が設置・運営をしている。唯一、公設に変わったのは第五学区。五小改築に伴い、学童を合築した。これは、子どもが過ごす環境を改革する取り組みの一つ。今までは民間事業者が建物を借り上げる形で運用をしていた。コロナ禍の頃に五小学区の学童を見学したことがある。施設は狭く、老朽化していて、申し訳ない気持ちになった。今後、学校改築などがあれば、学校に学童が併設されている環境を基本にしたいと考えている。今後は第三学区の学童整備に取り組むとともに、藤島地域の学校の整備も検討している。子どもの居場所の一つになる図書館の整備も進めていく。すぐにできそうな感じもするが、実は簡単ではない。一ヶ所だけ着手するのは簡単だが、鶴岡市は小学校だけで26校ある。規模の

大小を踏まえ、どのように整合的にやるか考える必要がある。今までその課題を置き去りにしてきた分、すぐに解決するのは難しい状況にあるが、改革を目指して進めている。鼠ヶ関をはじめ、市全体を見ながら取り組んでいきたい。

○前回の意見にあった、鼠ヶ関に学童や小児科がない問題は怎么样了のか。

●市長

鼠ヶ関の小児科問題は、医師不足が原因。医師の派遣ルールが変わってきたことが要因の一つ。その課題について、荘内病院や鶴岡地区医師会などと連携しながら取り組んでいるが、最も難しい課題の一つになっている。

●健康福祉部長

取組みの一つに、医療の現状について話し合う『まるっと地域医療』という懇話会がある。市民は自由に参加でき、医療関係者や学生など毎回約 50 人の参加者が集う。そこでは地域の医師が医療の現状を話したり、市民の皆様とワークショップをやったりしている。あるべき医療について話し合い、「鶴岡の医療ってこういう状態なんだ」ということを共有しながら、できることを見つけていく場となっている。行政としてもできることを話し合いながら進めていこうと取り組んでいる。

●市長

市民の皆様にも鶴岡の医療の現状をよく学んでもらいたい。普段の暮らしの中にも医療と隣接する分野があって、大きな病院と一般の医療機関の役割分担もある。高度な医療を提供する病院はそれに集中する必要があるから、コンビニ受診は控えるだとか。医療全体の現状を学ぶ機会を作ることは、課題解決に向かう取組みの一環だと思う。

○私も 7 年前に鶴岡市に移住した。第三学区に暮らしていて、まさしく今、新しく学童を建てる動きがある。私は学童の事務局長という形で保護者会に関わっているが、正直動きが見えない。情報共有できることは早く教えてほしい。また、学童併設について、改築したり専用の建物を建てたりせずともできることはあるのではないかと気づいた。行政には本当に垣根なく動いてほしい。第三学区には、昔からある学童と、民間企業が運営する『ソライ』の中にある学童の 2 つがある。小学校に合築する場合、今ある 2 つの学童が共存するためには統合するしかないと思うが、その辺について官民がどのように携わっていくのか、市長の考えを知りたい。

●市長

五小改築に合わせて五小に学童を合築した例を基本の考えとすると、果たして全学区で同じことをできるのか。現場に合わせて適用させていくのは当然のこと。第三学区の学童整備の方針は決まっている。用地買収の話や手法についても聞いている。近々、進捗状況についての情報が保護者会のもとに届くように手配する。

加えて、第三学区学童とソライについて。三小改築の際に統合すると言っているわけではなく、新しい学童を松本十郎さんの生家（跡地）に建てる方向で進めている。家政高や県の施設が残っている第三学区一帯の土地活用も考えて取り組んでいる。老朽化した第三学区学童は早くどうにかするようと言われていた。その先、朝暘三小の改築が必要になったタイミングで、周辺環境の整備について、保護者の皆様や周辺の方々のご意見もよく踏まえたうえで立案していく。杓子定規に五小方式を導入しようというものではない。

○三川町では、バスを活用した学校～学童間の送迎をすでに行っている。鶴岡市は鼠ヶ関に限った話ではなく、バスの運行はすぐには難しいという話だったが、具体的に何が障壁になっているのかお聞きしたい。

●教育部長

現在利用されている送迎の手段として、例えば櫛引地域では、学童がない櫛引南小の子ども

たちはタクシーを利用した個別送迎という方法で櫛引東小学校の学童へ通っている。藤島地域においては、渡前小と東栄小の子どもたちが藤島児童クラブを利用している。一方、スクールバスの活用に関しては、学童を利用せず家に帰る児童、学童とは全く別の方向に帰る児童もあり、多方向の運行をどのように調整するかという問題が一つ。バスの台数調整をはじめ、今は運転士の確保も難しい。また、ダイヤを変えた際に送迎時間の変更が生じれば、その調整もしなければならない。運転士の手配等の課題も出てくる。

○櫛引に住んでいます。娘たちが通っているくしびき南部保育園（運営は社会福祉協議会）は今年度で閉園になってしまう。転園先は、3歳以上児と3歳未満児で通う保育園が分かれてしまう。娘が年小と2歳のため、来年度からは二人を分けての送迎になる。祖母と一緒に暮らしているが農業をしていて、私たち夫婦も共働きで、通う保育園が分かれてしまうのは結構負担がある。去年の秋頃に、閉園・統合の話を聞いた。閉園後、保育園の建物はどのようなかと園長先生に聞いたら、市へ返すことしか決まっていないという回答だった。櫛引も子どもが遊ぶ場所がない。雪も多いし、屋内で遊ぶとなると場所がなくて大変困っている。保育園には立派な体育館があるから、今後どのように活用していくのか疑問。個人的な希望としては、保育園の隣にある櫛引南小には学童がないので、子どもたちの居場所・遊び場として活用してもいいのではないかと考えている。

●市長

閉園後の土地の有効活用については、担当部署だけではなく市全体で考えていかなければならない。ご提案の体育館の活用方法は非常に良い着眼点だと思う。建物の老朽化や耐久度合いを勘案して、安全面を考慮しながら検討していきたい。

○結婚して妻の出身地である櫛引に住んでいるが、学童がなかったり保育園が閉園したりが重なって、元々持っていた子育て環境に対する危機感が増した。お金があれば解決するものの、これ以上家庭の負担を増やして解決というのはなかなか難しい。行政には、櫛引地域の子育て世代への支援を頑張ってもらいたいと思っている。私が働いている会社の職員たちは核家族が多く、県外から移住してきた人も多い。そういう家庭の場合、櫛引に住んでいたら生活が回らなくなるのではないかと心配になる。私とその立場だったら、どうしたらいいかわからない。県外から鶴岡にやってきて、結婚して子どもが生まれても、学童もないし保育園も遠い。どうしたらいいか知りたいときに、市外から移住してきた人たちは大変だと思う。

●市長

くしびき南部保育園については、運営元の社会福祉協議会との関係も重要になる。子育て環境に関する情報発信は、櫛引庁舎をはじめ、本所の子育て推進課、教育委員会、建物は建設部も関わるわけだが、市民の皆様に求められていることを的確に把握してお届けできる仕組みの見直しを図っていかねばいけない。

○藤島には学童が一つしかなく、建物も狭いために児童が入りきらない。学童の先生たちも児童全員を見切れないうえ、5・6年生は、老人福祉センターなどの別の施設で過ごしているそう。私の娘は学童に通っていないが、通う子の保護者は困っている。

●健康福祉部長

子どもの数は減っているが、学童の利用者数は毎年増えている。そのため、建設当初の実態と合わず、狭くなっている。

●市長

学童施設の広さは、国の基準により児童1人あたりの生活スペースは1.65平方メートル以上にすると決められている。現在、市内で基準を満たしていない施設は8施設あり、藤島児童クラブに関しても、1人あたり1.46平方メートルしかない。

○スクールバスのダイヤについて、学童送迎用のチームを加える等の工夫できないか。例えば、庄内町の余目四小などは2便あり、先生たちが調整してダイヤを組む工夫をしている。

【第二部】

●健康福祉部長

「子どもの遊び場協議会」について説明する。この協議会は、遊びに関する専門家に集まっていたり、市の遊び場の方針を作ることを目指すもの。10月29日に行われた第1回の協議会では、専門家に対し、市で取り組んでいることを3つお話しした。

①キッズドームソライでの、親子モニターの無償実験 ②鶴岡公園での水遊び場 ③子どもたちから意見を聞く「鶴岡市こども会議」

●市長

この3つに関して、専門家にご意見を頂いた。これまで、遊び場について市民に見える形で協議をしていく仕組みがなく、市民に密着しているはずの行政の仕事内容が市民に伝わりづらくなっていた。誰でも傍聴できる協議会は、遊び場について決めていく過程が市民に見えるようになっている。ぜひ皆様に参加していただき、ご意見をお寄せいただきたい。

○冬は外で遊ぶ場所が少なくなる。雪が降ったら降ったなりの遊び方はあると思うが、親が連れていく必要があったり、子どもをちゃんと見てないといけない場所だったりする。今回、キッズドームソライの親子モニターの実験で、無償で施設を利用できるようだが、それが有料になったら利用料が高すぎて行くのをやめてしまう、というのが、今の現実だと思う。遊び場としてなかよし広場や駅前のまんまルームがあるが、未就学児の場所である。遊び場も駅前だけ。

○櫛引になくて困っている。子どもの年齢が上がるにつれて、どこに遊びに行けばいいのか悩んでいる。こちらでも体力的な限界があるし、冬場は雪も多い。結局、魅力的な遊び場が市外に結構あるので、そこに行っている。

○市外に遊びに行かなければならないので、鶴岡市で子育てしたいのかと問われると、正直疑問である。

○山形市の「シェルターインクルーシブプレイス コパル」や、寒河江市に新しくできたCLAPPIN SAGAEや、東根市の「東根あそびあランド」など。酒田市には、使わなくなったこども園の園舎を利用した、「おもちゃ図書館 うっぷたっぷ」がある。大きな滑り台や図書館があり、おもちゃも借りられる。三川町の「テオトル」は日曜日にやっているのがありがたい。

○親子で遊べるというのがポイントである。ソライの場合、年齢によって立ち入り制限があるため、子どもに「ママ来て～」と言われても行けない。

●健康福祉部長

遊び場についてアンケートを取ると、「新しく遊び場を作った方がいい」という意見もあれば、「今ある施設を有効に使った方が良い」という意見もある。アンケート結果を皆様に提供いただきながら、建設費や運営費もどのくらいかかるのかお知らせしていきたい。単に新しい遊び場を作ろうとしても、一つ施設を建設するのに約20億円がかかる。また、毎年維持費に1億円かかっていく。そこまで費用を投じなくても、既存の施設であればすぐに遊び場として利用できるのではないかと、といった声も考えて取り組んでいきたい。

●市長

あまり使われていない施設や、使い方が知られていない施設などを市民に知っていただく必要がある。また、利用料金が高いという意見や、もう少し最寄りの場所に遊び場がほしいという意見を総合的に勘案して、計画的に取り組んでいくべきだと思う。当面、協議会でやるべきことは、ソライについて。アンケートを基に、どのくらいの料金が適正かを議論して、PTAや学童関係者などの意見も含め利用しやすい形に変えていきたい。また、図書館整備も控えているが、図書館も子どもたちが過ごす場として非常に重要。将来を考えると、子ど

もたちがしっかりと利用していける整備が重要である。既存の施設をどう活用していくのかも大切。JA 鶴岡だだちゃアリーナを子どもたちに開放する日があるが、それもどこまで浸透しているのか。既存の施設を使って楽しめることもある。

鶴岡市は、県内ではナンバーワンの観光地で、加茂水族館や海水浴場、スキー場などはあるが、小さい子どもたちが冬場に安心して遊べるところが乏しいと言われ続けている。屋内施設があっても、ソライのように料金が高いという意見もよく言われている。

●建設部長

市内には、公園が 186 か所あり、遊具は約 440 基ある。その中で、設置から 30 年以上経っている遊具は 6 割あり、経年劣化で使えないという話や、修理してほしいという意見をいただきながら対応している。新しい遊具の設置は、小真木原運動公園や西部公園など、学区を超えて利用者が集まる公園の整備を重点的に進めている。小規模の公園については、優先度を考えながら対応している。

●市長

市内にこれだけの数の公園があるが、それぞれの公園の特色や、どのような人たちが遊べるのか、といった情報を、公園を必要としている人たちに届け、利用につなげることを、行政の成果目標にしていかなければならない。

○桜ヶ丘にある創造の森交流館では、広場にグラウンドゴルフのコースが設置されているが、子どもたちがそこで遊んでいると邪魔者扱いされてしまう。私たちは創造の森交流館にたくさんの人に来てもらいたくてイベントを開催しているが、なかなか行政が応援してくれない。

●市長

地域住民の方がどんなことを望んでいるのかを明確にしながら、創造の森交流館を地域の拠点として活かすのか、全市的な拠点として活かすのかを考えて取り組まなければならない。

○私は、障害がある子どもたちが放課後を過ごす場所で働いている。近場に室内で遊べる場所が少ない。これからは室内で遊べる空間の需要は増えていくと思う。市にもそういった施設があると良いと思う。障害がある子どもに対しては、一般より安い障害者料金が適用される施設もあるが、それで本当に安心して行けるのかと言われれば、まったくそうではない。私の息子も障害があってプールが好きだが、症状のため「料金が安くなったから大きいプールに行こう」ということはできない。そういった子どもたちが鶴岡には多くいる。例えば、数か月に 1 回、障害のある子どもたちに午前中にプールを開放するとか、市で取り組んでもらえるとありがたい。

●市長

今お話しいただいた、プールの開放をやりたいと思う。ある範囲の方々に対して、その方が自分らしく過ごせる時間を作っていかなければならない。

○長井市に「くるんと」という施設があって、図書館と子どもの遊び場が複合されているところがすごいと思った。今、鶴岡市では新しい図書館を建てる構想があるが、そのような複合施設のような図書館にしてほしい。

●教育部長

新しい図書館については、複合化という方向性に進んでいるが、子どもたちの居場所や皆の居場所となるような施設があるのがよいか、しっかり考えていくことにする。11 月 20 日に図書館懇話会があるが、図書館にどんな施設が複合していたらよいかなども議論していく必要があるので、今頂いた意見を含めて、多くの方から意見を伺いたい。

●健康福祉部長

ご参加いただき、ありがとうございました。

以上